JAPAN TASK FORCE

特定非営利活動法人 ジャパン・タスクフォース

災害支援活動中に南阿蘇の子供たちより美味しいコーヒーを頂きました！

Vol.4

JAPAN TASK FORCE

ご　あ　い　さ　つ

平素は『特定非営利活動法人ジャパン・タスクフォース』の活動にご支援を頂き、誠にありがとうございます。

今年度は、これまでの活動に加え、『ファイヤーファイターサバイバルＬｅｖｅｌⅡ』を新規開講することができました。関係者及び受講された方々からはご高評を頂き、その他の講習、検証会、イベントにおきましても多くの皆様にご参加頂き、大変感謝申し上げます。その一方、講習定員に限りがあり、ご希望に沿えない方々にはご迷惑をお掛けしておりますが、今後できる限りご希望に沿えるよう努力してまいります。

また、2016年４月に発生した、『熊本地震』では、第一陣として災害救助犬団体のサポート、第二陣として緊急物資支援を行いました。さらに第三陣では、地震で一部損壊した建物への安定化措置などを、他の団体と共に行い、現在も引き続き実施しています。

今回、継続的な支援活動のため『熊本地震緊急寄付』を皆様方にお願いしたところ、多くの方々からご賛同を頂き、そのお気持ちを無事に被災地に届け、被災地の方々から感謝のお言葉を頂いております。

２０１６年度も引き続き、特定非営利活動法人ジャパン・タスクフォースをどうぞよろしくお願いいたします。

2016年度ＪＴＦ　理事長・インストラクター紹介

理事長

MIYASHIMA SHIORI

宮島　志織

マスターインストラクター

SATO TAKAHIRO

佐藤　孝洋

理事

●担当講習

・ラダーレスキューシステム

・トレーニングコース講習

・RS検証会スペシャルアドバイザー

・USARレスキューシステム

専属インストラクター

YANAGIDA KENICHIRO

柳田　健一郎

理事・事務局

●担当講習

・ファイヤーファイターサバイバルⅠ・Ⅱ

・ラダーレスキューシステム

・トレーニングコース講習

・RS検証会スペシャルアドバイザー

・USARレスキューシステム

アシスタントインストラクター・

NAGASUGI　HIROYUKI

永杉　博之

SAIJYO　YOSHIHITO

西條　善仁

ISHIZAKA　KOJI

石坂　浩治

HAYAKAWA YOSHIMI

早川　好美

本部・事務局スタッフ

KATSUNUMA SHIHORI

勝沼　志保里

SASAKI TOMOMI

佐々木　智美

HAMAMOTO YUKI

濱本　ゆき

活　動　報　告

災害対応技術提供活動

▼ これまでの講師派遣実績

和歌山県消防学校（救助科/警防科）	新潟県消防学校（警防科/救助科）
神奈川県消防学校（特別救助隊員研修）	山口県消防学校（救助科）
長野県消防学校（救助科/警防科/その他）	和歌山県内１消防（救助技術研修）
富山県内１消防（救助技術研修）	大阪府内３消防（救助技術研修）
福井県内２消防（救助技術研修）	岐阜県消防長会
島根県消防学校（救助科）	岐阜県消防学校（救助科）
台湾台北市消防局　　※台湾より依頼	高知県消防学校
台湾内政部消防（Taiwan ＵＳＡＲ Team 研修）　※台湾より依頼	
大阪府中部消防事務連絡協議会救助分科会訓練会	

JAPAN TASK FORCE

▼ ２０１５年度講師派遣実績

和歌山県消防学校（救助科）	高知県消防学校（救助科）
株式会社 横井製作所	岐阜県中津川市防災講演
長野県消防学校（救助科）	岐阜県消防学校（救助科）
島根県消防学校（救助科）	山口県消防学校（警防科）
大阪府中部消防事務連絡協議会救助分科会訓練会	

他団体との災害支援活動

認定 NPO 法人 日本レスキュー協会連携事業

２０１４年１０月	みやぎ地域復興支援「県外避難者を対象とした防災減災講演会」
2014 年 ３月	東日本大震災「追悼式」への参加、防災啓発実技訓練（講師派遣）
2014 年 ５月	災害救助犬啓発活動：みんな大好きペット博（京セラドーム開催）における「災害救助犬展示訓練・デモンストレーション」への参加
2015 年 ４月	ネパール大地震救助犬派遣に伴う現地検索活動における支援・安全管理
2015 年 ５月	災害救助犬啓発活動：みんな大好きペット博（京セラドーム開催）における「災害救助犬展示訓練・デモンストレーション」への参加
2015 年１１月	災害捜索活動と災害救助犬の活用について：ＦＥＭＡカリフォルニアタスクフォース３サーチＫ９スペシャリスト Lynne　Engelbert 氏　招聘
２０１６ 年 ４ 月	熊本地震捜索活動

これまでの災害支援活動

2010年７月	岐阜県可児市豪雨災害	・活動延べ日数：５日間 ・活動内容：捜索活動
2011年３月	東日本大震災 岩手県大船渡市	・活動延べ日数：６日間 ・活動内容：捜索活動、復旧活動、支援物資運搬
2011年９月	和歌山県台風12号 豪雨災害	・活動延べ日数：３日間 ・活動内容：捜索活動、復旧活動
2014年８月	広島県大規模土砂災害	・活動延べ日数：２日間 ・活動延べ人員：８名 ・活動内容：捜索活動、救助犬活動の安全管理
2015年４月	ネパール大地震	・活動延べ日数：５日間 ・活動延べ人員：１０名 ・活動内容：捜索活動、救助犬活動の安全管理、海外救助隊との連携活動におけるマネジメント
2016年4月	熊本地震	・現在、継続活動中（2016年7月現在）

熊本地震での必要物資の買い出し

ネパール大地震でのアメリカチーム

ネパール大地震でのペルーチーム

ネパール大地震での他国間合同活動

一般企業・公共施設への防災知識・技術提供

大阪府内 有料老人ホーム	「緊急時対応マニュアル」作成マネジメント
大阪府内 私立幼稚園	
株式会社 横井製作所	火災現場に求められる資器材について！

災害捜索活動にご協力頂きました
ＪＴＦ活動会員様 作成活動報告

熊本地震

ジャパン・タスクフォース活動記録

平成28年4月14日発生

地震発生

- 2016年（平成28年）4月14日21時26分
- 熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5（暫定値）、最大震度7の地震が発生した 。
- さらに、4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3（暫定値）、最大震度6強の地震が発生
- 後に、14日を前震、16日を本震となる。

ＪＴＦの活動・・・

- 当初、15日夕方からの出動を計画していたが、先に到着した日本レスキュー協会からサポート等の必要性が無さそうなので出動の見送りを検討。
- その後、16日深夜の本震により被害が拡大した為、16日正午には出動準備連絡を発信し同行者を募る。
- 同日18時には伊丹市の日本レスキュー協会に立寄り、現地で活動中の隊員用の追加物資や被災地への支援物資を受取り熊本に向け出動。

熊本県到着（菊池市総合体育館）

- 緊急消防援助隊 大阪府隊からの情報を得るべく、午前4時頃に宿営地に立寄り情報収集。
- 日本レスキュー協会隊と御船ＩＣで合流のため、5時20分移動開始。

益城町の被害状況

益城町を通り御船ICへ

- カーナビでは到着まで約30分であったが、建物の崩落、道路の隆起や崩壊のために、迂回を余儀なくされ、最終的に合流出来たのは約1時間40分後。遅延した為、合流場所も変更した。

益城町の被害状況

南阿蘇活動拠点
（長陽村役場・南阿蘇中学校併設）

到着時、既に災害救助犬の調整本部が設置

救助犬の必要現場の調整とルート確認！

救助犬の要請現場までのルート情報収集

- 現場までのルート情報取集が困難を極めた。
- 白バイ隊の機動力を実感した
- 収集した情報を他機関と共有した

火の鳥温泉付近の被害

火の鳥温泉（到着時）

- 到着時、既に重機が投入されていた。

先に活動していた熊本県警と海上自衛隊の救助犬との活動協議

救助犬の捜索活動終了の申し送り

救助犬の明確な反応箇所はなかったが、微かな変化を見せた箇所等の申し送りも実施した。

第二現場、高野台地区への道のり

高野台地区への道のり

・当日は気温湿度が共に高かった為に出来る限り、救助犬のコンディションを保った状態で捜索活動を実施したかったが、土砂崩れなどがあり、かなりの悪路の移動となった。

高野台地区の自衛隊・警察の活動

高野台地区の活動

熊本地震における捜索活動を終えて（所感）

特定非営利活動法人
ジャパン・タスクフォース　活動会員（現役消防士）

４月 16 日 18 時 00 分頃　大阪出発
　　17 日　４時 00 分頃　熊本県菊池市到着
　　10 時 30 分頃　長陽村役場(南阿蘇中学校)到着、関係機関との協議
　　12 時 00 分頃　火の鳥温泉サイト（夫婦２名）の捜索開始
　　12 時 40 分頃　関係機関に引き継ぎ活動終了、高野台地区へ出発
　　14 時 00 分頃　高野台地区到着、活動中の警察と自衛隊と協議
　　14 時 30 分頃　捜索活動開始
　　17 時 00 分頃　関係機関に引き継ぎ活動終了
　　18 日 14時 00 分頃　ＪＴＦ本部到着

・今回の活動は、以前に経験した和歌山県台風１２号での土砂災害に比べ、災害現場までの移動距離が長く、到着まで約１０時間要し体力的な負担が大きかった。しかしながら、捜索活動時間が短時間であり、体力的影響は少なかったが、やはり帰宅後数日間は疲れが残った状態でした。
　※ 72 時間の活動をするためには、その活動が出来るコンディションで現地入り出来るかが重要であると再認識できた。

・先着していた日本レスキュー協会からの情報や、熊本県内在住の現地ＪＴＦ役員、活動会員からの被災状況や交通状況などの情報に非常に助けられ、比較的交通渋滞や迂回などをすることなく早い段階で南阿蘇に到着できた。
　※ 現場の詳細状況や先遣情報等の入手が到着時間の短縮、活動効率を上げる要素だと感じた。

・被災地での日中移動は、交通渋滞に巻き込まれる可能性が高く、さらに、支援者（我々）の車両が渋滞の要因に成りかねない。しかし、夜間の移動は道路の崩壊、遮断、隆起や陥没等により災害現場までの走行には非常に神経を使った。
　※ 夜間の移動は道路状況把握が困難なことから、出来れば避けるべきだと感じた。

・被災地での救助犬による捜索活動について、捜索前に警察や自衛隊が活動していたため、隊員などの臭気が残っていたのか、救助犬が捜索活動をやりにくそうな印象を受けた。
　※今回は、現場に居合わせた各活動機関が、これまでに比べ救助犬への理解があり、こちらからの要望にも心よく応じて頂き、救助犬の認知度が向上しているようにも感じた。

・インターネットを活用することにより色々な情報が入手でき、被災前、後の航空写真や画像などを現場で照らし合わせて活動することも非常に有効だったと感じた。さらに、今回はＧＰＳを活用し、救助犬の捜索範囲と興味や反応箇所の座標を活動機関に申し送りができたことは、大きな成果であった。
　※ 今後は、活動機関が情報共有出来る環境整備が求められます。

『平成２８年　熊本地震による被災建物の二次倒壊を防ぐ活動』
～　PP バンドを使った応急補強工法　～

【活動までの経緯】

熊本地震発災後、JTF 災害派遣チームが熊本県南阿蘇村での活動中に、「一般社団法人 ZENKON-nex（：ゼンコン - ネックス）の齋藤 正（さいとうただし） 氏たちと出会いました。ZENKON-nex の活動は、倒壊の恐れのある木造住宅の壁に対して、専用に加工した金具を用い、荷物用結束バンド（通称：PP バンド）を張ることで余震による倒壊や二次災害を防ぐ応急補強工法を開発され、無償支援を実施されています。この活動には、施工に係る人員や現地のコーディネーターが必要とのことでしたので、JTF でも協力できるのではないかと考え、熊本の JTF 会員に相談したところ、快く協力を得ることができました。

【活動の概要】

この倒壊の恐れがある家屋の補強は、「応急危険度判定」により、“注意（黄色）”以上と判定された木造住宅に対し、PP バンドを使用して二次倒壊を防ぐ応急補強工法になります。まずは、注意（黄色）以上の木造住宅を探し、家主の許可を得ることから始めます。家主の許可を得てから、応急危険度判定ができる建築士や専門家による木造住宅の詳細な診断が行われます。この診断に基づいて、どの壁に何本の PP バンドが必要かを評価されます。その評価に合わせて、壁に PP バンドを施工することになります。施工方法は、金具を柱に取り付けて PP バンドを張り、スポットシールという金具で PP バンドを止める作業です。

≪外壁の応急補強≫

≪内壁の応急補強≫

【今後の活動】

PP バンドを使った応急補強工法『タスキ～Ribbonwrapping～』は、今後も施工と検証を行う予定です。それに伴い、近畿大学、ZENKON-nex、JTF と共同で研究を進める協議を行っています。JTF としましては、US&R 技術の緊急的支柱作製要領（ショアリング）との併用を考察し、これまでショアリングの課題でもあった、「倒壊した木造住宅の安定・固定」のヒントになればと思っています。

【熊本地震後の活動状況】　＊　この活動は、NHK「おはよう日本」で取り上げられました。

５月９、１０日　　熊本県城南町にて『タスキ』による応急補強
（ZENKON-nex　、JTF）

６月５、６日　　熊本県城南町にて『タスキ』による応急補強、建物調査及びカウンセリング
（ZENKON-nex　、JTF）

※ 活動延べ日数　４日間　活動延べ人員　約４０人　活動しました。

熊本地震緊急寄附のお礼とご報告

このたびの熊本地震におきまして、犠牲になられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますと共に、被災者及びご家族の皆様方に対しまして、心よりお見舞い申し上げます。

今回の熊本地震緊急寄附では2016年７月１日までにお預かりした寄付金が￥376,000円となりましたのでご報告致します。今回の寄附は災害捜索活動、被災地及び、現地防災機関への支援物資購入、それに関する交通費に活用させていただいております。皆様方に心より感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。また、現在も引き続き被災地活動を継続しています。引き続き、皆様のご協力をお願いします。

『 ジャパン・タスクフォース 』の活動への ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いします！！

当団体の活動には、多くの皆様方のご支援・ご協力が必要です。私達の活動は、近年、大規模化・多様化している災害に立ち向かうために、一人でも多くの方々に救助の知識・技術を伝え、災害時に活用していただくことで、「一人でも多くの命を助け、守る」と言う理念のもとに行っています。多様化する災害に立ち向かうためにも、これまでの知識や技術に加え、新たな考え、知識・技術が必要になります。そのためにも、皆様の知恵を集結し、それを具現化していくことが必要です。

今後もこのような活動を継続して行えますよう、皆様の温かいご理解・ご支援を心よりお願い申し上げます。

本 認 作 成 協

スペシャル レスキュー サービス株式会社

☆業務内容：救助講習・各種防災セミナー講師、アメリカ救助研修

Special Rescue Service Japan

お問合せ先：〒501―3904　岐阜県関市明生町２－３－１３－１０２

Ｅ メ ー ル：info@srs-j.co.jp

★カタログ、パンフレットから多種多様の印刷まで

CORONA コロナ印刷株式会社

〒532-0011

大阪市淀川区西中 6-3-14

DNX 新大阪ビル 7F

電話 ：(06) 6306-2715 (代)

Right Rescue

JAPAN RIGHT RESCUE High Quality Equipment

〒535-0001

大阪府大阪市旭区太子橋４丁目 9-48　アーバンエース２０５号

電 話 番 号：06-6958-4708　（FAX 同じ）

携 帯 電 話：090-3654-2122

Ｅ メ ー ル：info@r-rescue.com

ＨＰ　URL：www.r-rescue.com

レスキュー４２ほか、取扱商品につきましてはホームページをご覧ください。